

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

乳がん治療のポイント

～治療の選択と他科連携～



2025. 9 Vol.61

① 武藤院長挨拶 ② ③ ④ 特集 乳がん治療のポイント ⑤ 看護部通信 患者さんに寄り添った外来看護を目指して
⑥ 地域医療連携ニュース トルカブプログラムの紹介予約について、がん相談支援センター ⑦ インフォメーション より良い病院
作りを目指して成長し続けます(病院機能評価の更新審査)、広報番組放送予定、令和7年度 県民公開講座 開催予定、編集後記
外来診察担当医表(別紙)



院長挨拶

院長 武藤 正彦

令和7年の盛夏。この夏の40℃近い猛暑は尋常ではない。子供の頃よく見かけた青空に湧き立つ入道雲を見る機会が今年は少ないように思います。

日米関税交渉の結果、その経済的波及効果が日常の社会生活のいろいろな分野で、どのような現れかたを呈してくるのが懸念されます。特に、病院を経営していく立場からみると、医薬品および医療材料費のさらなる高騰による医業収支の悪化、賃上げへの影響などが脳裏をかけめぐります。このように病院の厳しい経営状況が続く中、当医療センターは、令和6年度のNHA汎用医療材料分野における共同購入の採用率の顕著な伸び(26.05% UP)を示したことに對して、令和7年6月27日付でNHAから表彰状を授与されました。大変慶ばしい実績評価といえます。この節約遂行に特に大きく貢献した看護部に対して感謝します。今後とも絶え間のない経費削減に関わる行動努力を期待しています。

他方激動する社会情勢の中、当院が掲げる経営理念と目標はこのまま堅持にしておくことに問題はないか、が今、問われています。ここで一度立ち止まって当院の経営状況を分析し、再考を図る必要性があると判断しています。そこから得られる分析の成果は、きっと将来に向けた病院経営の安定化に有用だと確信しています。ひいては、あらゆる変化に柔軟に対応できる様、未来社会の貢献につながれば幸いです。

特集 乳がん治療のポイント ～治療の選択と他科連携～

乳腺外科診療の概要と特色

日本では年間約94,000人の女性が新たに乳がんと診断され、生涯罹患リスクは約9人に1人とされています。部位別がん死亡数では第4位ですが、早期発見により治療の可能性は高く、予後が良いことも知られています。当院では、外科治療を中心に放射線療法・薬物療法・遺伝医療を組み合わせた集学的治療体制を整えています。合同手術や遺伝カンファレンスを通じ、診断から治療・フォローまで切れ目のない医療を提供します。

また、乳腺外科には乳腺専門医が2名在籍し、形成外科、放射線治療科、産婦人科、遺伝診療科など関連診療科にも専門医が常勤しており、最新の知見を迅速に診療へ反映しています。

乳がんの5年生存率(%)

Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	全症例
97.4	93.1	77.7	37.7	94.2

2022年版
乳癌診療ガイドライン②
疫学・診断編

全切除か温存か、そして再建へ

乳がんは、病変の大きさやリンパ節転移、遠隔転移の有無により、早期乳がん(Stage 0～ⅢA)、局所進行乳がん(Stage ⅢB・ⅢC)、転移・再発乳がん(Stage IV)に分類されます。早期乳がんの治療目的は、手術や放射線による局所療法と薬物療法による全身療法を組み合わせ、微小転移を根絶・制御し「治療」や「長期生存」を目指すことです。

手術は乳房全切除術と乳房温存療法が中心です。広範囲に進展している場合や放射線療法が受けられない場合は全切除が適応となります。一方、腫瘍が小さく整容性が保てる場合は、放射線療法を前提に乳房温存療法を推奨しています。当院には形成外科があり、ご希望に応じて乳房再建術も可能です。

腋窩リンパ節と放射線療法

腋窩リンパ節に転移が明らかでない場合は「センチネルリンパ節生検」を行い、不要な腋窩リンパ節郭清を避け、合併症の軽減を図っています。放射線療法は乳房温存手術後やリンパ節転移が多い場合、皮膚・筋肉浸潤例などに適応され、再発・転移例では疼痛緩和や症状コントロールを目的に行うこともあります。

かつては腋窩リンパ節郭清後にリンパ浮腫が多く見られましたが、術式改善により減少しています。それでも約20%に発症するとされ、注意が必要です。近年はセンチネルリンパ節に転移があっても、薬物療法や放射線療法を組み合わせることで腋窩リンパ節郭清を省略できる症例も増えています。放射線治療科と相談しながら、適切な放射線療法を提供できるよう取り組んでおります。

術前化学療法の標準化

薬物療法にはホルモン療法、化学療法、分子標的療法があり、腫瘍の特性に応じて選択されます。化学療法は術前・術後いずれでも効果は同等とされ、現在では「術前化学療法」が標準戦略の一つです。当院ではトリプルネガティブ乳がんやHER2陽性乳がん、切除不能乳がんなどに対して積極的に導入しています。術前化学療法により切除不能腫瘍を切除可能にしたり、治療効果を直接評価できる利点があります。特にpCR(病理学的完全奏効)が得られた場合は良好な予後が期待できることが報告されています。

さらに近年では、術前化学療法後に腫瘍が残存した場合、術後治療薬を変更・追加する「residual disease guided approach」により予後の改善が得られることが示され、より個別化された治療が可能となっています。

乳がんのサブタイプ分類：乳がん細胞が持つ特殊なタンパク質

	ホルモン受容体：陽性	ホルモン受容体：陰性
HER2：陰性	①ホルモン受容体陽性 /HER2 陰性 (ルミナルタイプ)	④トリプルネガティブ
HER2：陽性	②ホルモン受容体陽性 /HER2 陽性 (ルミナル HER2)	③ホルモン受容体陰性 /HER2 陽性

特集 乳がん治療のポイント ～治療の選択と他科連携～

遺伝医療の広がり

乳がんの7～10%は遺伝性とされ、代表的なものに「遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)」があります。BRCA遺伝子異常が確認された場合、PARP阻害薬による治療や将来の発症予防策が行われます。転移・再発乳がんでは治療選択が難しい場合には多遺伝子パネル検査も活用されます。当院では臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーが常勤し、乳腺外科と連携して適切な治療・予防策を提供しています。

妊孕性温存という選択肢

乳がんは高齢者に多い一方、20～30歳代にも発症します。術後の薬物治療が長期間に及ぶ場合があり、年齢が高くなることにより卵巣機能が低下し、妊娠が難しくなることがあります。一般的に閉経になる確率は治療開始時の年齢と治療内容により変わりますが、治療開始時の年齢が40歳以上の場合は閉経になるリスクが高まります。将来の妊娠を希望される方には、薬物療法開始前に受精卵や未受精卵子、卵巣組織を凍結保存する「妊孕性温存療法」という選択肢があり、希望される患者さんに対応しています。

早期発見の鍵は自己観察と検診

まずは早期発見のために乳がん検診を受けていただくことが重要です。乳がん死亡率減少効果が明らかな検査方法は、マンモグラフィ検査です。国民生活基礎調査によれば、乳がん検診の受診率は全国で約48%（山口県は約35%で最下位）であり、乳がん死亡率が減少している欧米での受診率（70～80%）に比べかなり低いとされています。

がん検診受診率（乳がんのみ 抜粋）

区分		平成28年		令和元年		令和4年	
		山口県	全国	山口県	全国	山口県	全国
乳がん	女性	36.1% 【46位】	44.9%	35.4% 【47位】	47.4%	34.8% 【47位】	47.4%

厚生労働省「令和4年国民生活基礎調査」

また、日常生活で「乳房を意識する生活習慣」を身に付けましょう。これは「**ブレスト・アウェアネス**」と呼ばれ、乳がんの早期発見・診断・治療につながる重要な「生活習慣」と考えられています。



マンモグラフィ検査、撮影は撮影技師認定を取得した女性技師が担当します。

「ブレスト・アウェアネス」って何？

ブレスト・アウェアネスは、**乳房を意識する生活習慣**です。具体的には、日ごろの生活の中で次の4つを行いましょ。

ブレスト・アウェアネスの4つのポイント

1. 自分の乳房の状態を知る
2. 乳房の変化に気をつける
3. 変化に気づいたらすぐ医師に相談する
4. 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

2019年 乳がん検診の適切な情報提供に関する研究（厚生労働省研究班）

1. 自分の乳房の状態を知る

日頃から「自分の乳房の状態を知る」ことがまずブレスト・アウェアネスの第一歩です。入浴やシャワーの時、着替えの時、ちょっとした機会に自分の乳房を見て、触って、感じてみましょう。入浴の際に、石鹸を付けて撫で洗うのもいいでしょう。

2. 乳房の変化に気をつける

普段の自分の乳房の状態を知ること、初めて、変化に気が付けます。しこりを探す（自己触診）という行為や意識は必要ありません。「いつもと変わりがないかな」という気持ちで取り組みましょう。

変化として注意するポイントは

- ・乳房のしこり
- ・乳房の皮膚のくぼみや引きつれ
- ・乳頭からの分泌物
- ・乳頭や乳輪のびらん などです。



3. 変化に気づいたらすぐ医師に相談する

しこりやひきつれなどの変化に気付いたら、次の検診を待つことなく病院やクリニックなどの医療機関を受診しましょう。大丈夫だろうと安易に自己判断することなく専門医の診察を受けましょう。

4. 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

乳がん検診の目的は、乳がんでなくなる女性を減らすことです。現在厚生労働省が推奨している乳がん検診（マンモグラフィ）は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。40歳以上の女性は、2年に1回、定期的に検診を受けましょう。また、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしましょう。

Message ～メッセージ～

地域のかかりつけ医療機関や検診機関と連携し、以下について 幅広く受け入れています。

- ◆ 乳がん検診で「精密検査が必要」と判定された方
- ◆ 画像上は異常がないが、しこりや痛みなど自覚症状を訴える方
- ◆ 乳腺炎や乳汁分泌など、良性・悪性の鑑別が難しい症例
- ◆ 若年で乳がんの家族歴がある方（遺伝性乳がんの可能性）
- ◆ 治療後のフォローアップを希望される乳がん既治療者の方



乳腺専門医と他科が連携する当院の診療体制は、診断精度の向上、治療の選択肢拡大により、患者さんの安心感につながっています。外科手術・再建・薬物・放射線・遺伝医療・妊孕性温存までを一貫して提供できることが、当院の大きな強みです。また新しい選択肢として注目されている「ラジオ波焼灼療法(RFA)」を安全かつ適切に実施する施設として、新たに日本乳癌学会より認定を受けました。これからも地域の皆さまと共に、乳がんの早期発見と質の高い治療を通じて、健康と生活の質の向上に貢献してまいります。



【藤井 雅和 医師 / ふじい まさかず】

- ・日本外科学会 指導医・外科専門医・認定医
- ・日本乳癌学会 評議員・指導医・乳腺専門医・認定医
- ・日本消化器外科学会 指導医・消化器外科専門医
- ・検診マンモグラフィ読影認定医
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・麻酔科標榜医
- ・日本医師会 認定産業医



【上田 晃志郎 医師 / うへだ こうしろう】

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本乳癌学会 乳腺専門医・認定医
- ・検診マンモグラフィ読影認定医
- ・乳がん検診超音波検査実施・判定医
- ・日本脈管学会 脈管専門医
- ・下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医

看護部
通信

内科

内科

内科



患者さんに寄り添った外来看護を目指して

内科外来主任 石丸いづみ

当院の外来には、多い時で1日あたり1,000人を超える患者さんが来院されます。その中で、内科外来には約3割にあたる患者さんが受診されます。内科外来の診療科は多岐にわたり、現在当院では脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科を掲げています。また、内科以外にも多くの診療科や治療部門を設けています。

私たち外来看護師は、多くの患者さんの診療が少しでもスムーズに進むように、日々看護を行っています。そして、患者さんが安心して通院していただけるように、多職種と連携して情報提供を行い、必要な援助が受けられるよう橋渡しをする役割も担っています。院内には様々な相談部門があり、治療に対する不安はもちろん、生活のサポートにも対応できるスタッフが常駐しています。

外来看護師は「病院の顔である」と言われています。この点を、私自身とても大切にしています。患者さんが病院に來られて初めて出会う医療者が、私たち外来看護師です。そのため、受診された患者さんが受ける印象が、そのまま病院の印象になると考えています。どんなに良い医療が提供されていても、対応や言葉かけ一つで印象は大きく変わってしまいます。

6月には、外来の全職種を対象に、患者さんの満足度向上を目指して接遇研修を実施しました。今後も、親切な対応、迅速な判断、行動力など、より良い接遇に向けて取り組んでいきたいと考えています。そして、患者さんには「この病院を選んでよかった」と思ってもらい、安心して治療に専念できるような外来づくりを目指しています。相談や援助が必要な際には、いつでもお気軽にお声がけください。

地域医療連携
NEWS

地域医療連携室

トルカブプログラムの紹介予約について
乳がんの患者さんのうち、ホルモン受容体陽性かつHER2陰性の患者さんの治療に使用される「トルカブ錠（一般名：カピパセルチブ）」の適応を判断するための遺伝子検査を行っています。かかりつけ医療機関様からの予約申請が必要です。

【予約申込～受診の手順】

かかりつけ医療機関様（紹介元）

1 書類作成

外科あての診療情報提供書を作成し、総合医療センターのホームページから①紹介患者予約申込書、②トルカブプログラム適格・除外基準確認書、③病理検体品質チェック依頼書の3つの様式をダウンロードし、作成します。

2 FAX送信

診療情報提供書、①紹介患者予約申込書、②トルカブプログラム適格・除外基準確認書を、総合医療センターの地域医療連携室にFAXします。

3 返信

総合医療センターで受診日を調整し、15分～1時間後に受診予約票がFAXで返送されます。

4 患者さんへ

診療情報提供書、①紹介患者予約申込書、②トルカブプログラム適格・除外基準確認書、③病理検体品質チェック依頼書、病理組織検体、病理診断結果をセットにして、患者さんに渡します。

患者さん

5 書類セットを預かる

かかりつけ医療機関様（紹介元）から予約日時を聞き、下記の書類セットを預かります。

6 受診

予約当日に書類セットを持参され、総合医療センター1階の紹介患者窓口までお越しください。



患者さん持参セット

診療情報提供書

①紹介患者予約申込書

②トルカブプログラム適格・除外基準確認書

③病理検体品質チェック依頼書
病理組織検体、
病理診断結果

がん相談支援センター

今回特集の「乳がん」は、10～80代と幅広い年代で発症し、当院で登録されている女性のがん種の第1位です。

がんの診断を受けても毎日の生活は続き、それぞれのライフステージにより抱える不安や課題は様々です。全世代で共通することとしてアピアランスケアが挙げられます。これは、手術や抗がん剤の副作用により必要となりますが、当院ではがん専門看護師等と連携し相談支援を実施しています。また、AYA世代では妊孕性温存の課題がありますが、当院は妊孕性温存療法と温存後生殖補助治療の実施機関となっております。

働く世代へは、院内に山口産業保健総合支援センターやハローワークの出張相談窓口を開設しております。乳がんは治療期間が長い疾患になりますが、がん治療に伴うつらさや苦痛に対して緩和ケアチームも活動しております。がん相談支援センターでは、当院に受診がなくても無料、かつ匿名でも相談が可能ですのでお気軽にご利用ください。



○より良い病院作りを目指して成長し続けます

当院は 2025 年 3 月に、公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受審し、2025 年 7 月 11 日付で病院機能評価 (3rdG:Ver.3.0) に認定 (認定 5 回目) されました。

病院機能評価は、病院組織全体の運営管理および提供される医療について、基本的な活動 (機能) が適切に実施されているかどうかを評価する仕組みで、組織横断的な質改善活動を支援するツールです。

今回の評価により、「適切に行われている」と評価された項目はより高みを目指し、明らかとなった課題に対しては、病院全体で改善に取り組むことで、更なる医療の質向上に努めてまいります。

今後とも、当院の基本理念に向かって職員が一丸となり、継続した質改善を推し進め、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日々成長し続ける病院となるよう邁進する所存です。

病院機能評価受審準備委員長 (副院長) 福迫 俊弘



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

放送予定日時	放送内容	出演
11月1日(土) 18:55~19:00	アトピー性皮膚炎でお悩みのお子さんへ ～小児アレルギー相談外来～	小児科 長谷川 真成医師 清水 美保医師 他
11月5日(水) 16:00頃～		
12月6日(土) 18:55~19:00	膀胱がん 検査と治療について	泌尿器科 松本 洋明医師
12月10日(水) 16:00頃～		



令和7年度 県民公開講座 開催予定

開催日時	テーマ	講師	開催方法
10月25日(土) 14:00~15:15	講演Ⅰ てんかんってどんな病気? ーてんかん専門クリニックの力の見せどころー	座長 てんかん副センター長 (副院長) 福迫 俊弘医師 おちあい脳クリニック 院長 落合 卓医師	救急棟2階 講義室
	講演Ⅱ 知っておきたいてんかんとおのつきあい方 ー支援のしくみや治療の方法などー	座長 てんかんセンター長 (脳神経外科参与) 藤井 正美医師 自治医科大学附属病院 病院長 (脳神経外科教授) 川合 謙介医師	
11月29日(土) 14:00~15:00	乳がんを知ろう! ー早期発見が命を守るー	外科 (乳腺外科) 上田 晃志郎医師	オンライン
1月24日(土) 14:00~15:00	カテーテル治療	循環器内科 上山 剛医師	

お知らせ

今年度の県民公開講座は、「対面とオンラインによるハイブリッド形式」または「オンライン」での開催を予定しています。日程により開催方法が異なりますのでお気を付けください。
※実際の講演時には、テーマに沿った演題に変更予定です。

受講料
無料

編集後記

乳がんは早期発見・早期治療が何よりも重要であり、そのためには、診療の質だけでなく、患者さんが安心して相談できる環境づくりが欠かせません。当院では、乳腺専門医が在籍し、形成外科・放射線治療科・遺伝診療科・産婦人科などとの連携を通じて、診断から治療、術後のフォローアップまで一貫した体制が整っている強みがあります。乳がんに関心を持つ方や、検診を迷っている方の一歩につながれば幸いです。(総務課Y.N)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymghp.jp/>